

かいよう病に強く豊産性のレモン新品種 「璃の香（りのか）」

国産レモンの生産量が拡大していますが、一般的にレモンはかいよう病に弱いので、露地栽培の適地は非常に限られていました。そこで、かいよう病に抵抗性で栽培性に優れ、新たな需要創出や生産可能地域の拡大が期待できる新規のレモン品種「璃の香」を育成しました。「璃の香」は、大果で、果肉歩合が高く、無核果生産も可能で、加工用カンキツとして有望です。

☆ 技術の概要

- 1991年(平成3年)に農林水産省果樹試験場(現：農研機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点)において、「リスボン」レモンにヒュウガナツを交雑して得られた実生から選抜しました。「璃の香」の「璃」は「宝」あるいは「ガラス」「水晶」という意味で、この品種のもつ透明感やすっきり感のある香りを表しています。
- 着花数が多く、豊産性で隔年結果性は低く安定した生産が期待できます。成熟果実の収穫期は11月下旬であり、「リスボン」レモンや「マイヤーレモン」より1ヶ月程度早く熟します。

3. 果実重は200g程度、果皮は緑黄～橙黄、果面は滑らかです。剥皮性は中～やや難、手で剥くこともできます。香りは強くありませんが、特有のレモン香があります。果肉歩合は79%と高く、11月20日の調査で果汁の糖度は9.2%、クエン酸含量は5.6%程度と、「リスボン」レモンと比べて酸味が少なめです。完全種子は「リスボン」レモンや「マイヤーレモン」に比べ少なく、無核果も含まれます。

表「璃の香」の果実特性(育成地で11月20日に調査)

品種名	果 実						
	果実重 (g)	果肉歩合 (%)	搾汁率 (%)	糖度計 示度 (%)	酸含量 (%)	平均 種子 数	種なし 果率 (%)
璃の香	198	79.3	50.1	9.2	5.6	5.3	25
マイヤーレモン	169	73.0	—	7.9	6.0	21.7	0
リスボンレモン	155	60.1	40.0	9.2	8.1	8.6	0



図. 果実(左)と結実状態(右).

☆ 活用面での留意点

- 露地栽培でもかいよう病の発生が少なく、樹体の耐寒性の問題も認められませんので、広くカンキツ栽培地域に適すると考えられます。
- 結実性が良いため、連年の過度の着果負担による樹勢の低下を引き起こさないよう注意する必要があります。また、果皮が薄いため寒さによる果皮障害が発生することがあるため、適期の収穫が肝要です。
- 2015年秋から苗木の販売が開始されました。
- 詳細については、農研機構果樹研究所(電話:054-369-7109)にお問い合わせください。
(果樹研究所 カンキツ研究興津拠点 上席研究員 吉岡照高)